

## 沈黙と謙遜は……

「華ちゃんは日本語が話せるんですか？」

末っ子が米国から帰国し、幼稚園の面接に行ったとき、ひと言も話さなかったため園長先生が言った一言だ。私達としては、

「英語はどの程度話せるのですか？」

そんな質問があるのが普通だと思っただのに。米国帰り、少しも話さなかっただけで、英語が話せて日本語が話せないのではないかと心配されてしまった。娘はシャイなだけなのに。

平成元年六月、私はメキシコのテフアナ工場に赴任した。工場は米国との国境沿いにあった。

メキシコは生活環境や治安が良くないため、アメリカで家を借り、毎日国境を越えて工場に通勤した。

メキシコの公用語はスペイン語で、英語とスペイン語は赴任前に少し勉強したが十分とは言えなかった。

外国語上達法は、とにかく話すの一言に尽きる。間違っていてかまわない。頭に浮かんだ言葉や、思ったことをどんどん話すことが上達への一番の近道だ。「英語は度胸」という本があったが、本当にその通りであった。

しかし、私は一度頭の中で文法を組み立てる。これで良いのかなと思いつながら話す。解らない単語があると、どうだったかなと考えているうちに、話すタイミングを失ってしまう。こんなこともあり、英語もスペイン語も上手とは言えなかった。

工場の現地部長クラスは英語を話せたが、課長クラスは片言で単語を並べる

だけの人が多かった。勤続年数が長い人は、歴代の駐在員から学んだであろうと思われる、播州弁の日本語を少し知っていた。彼等とは片言のスペイン語と、片言の英語と、播州弁を駆使して話をした。しかし、込み入った話になると、スペイン語がよく話せる駐在員や、日本語の話せるメキシコ人がいたので、彼らに通訳を頼んだ。近くに日本語が話せる人がいると、困ったときどうしても頼ってしまうので、レベルが上がらなかった。

帰国後、田舎ではまだまだ海外駐在の経験者は少なく、話の弾みで米国で働いていたことになる、

「三年も行っておられたのですか。すごいですね。英語はぺらぺらですよね」

と言われることがよくあった。私が、「頭が悪くて、うまく話せなかったんです。それに工場はメキシコにあつて、スペイン語なんです。英語もスペイン語も中途半端でうまく話せませんでした。外国語は難しいですね」

と言うと、話し相手は勝手に、謙遜している、と解釈しているようだった。

それと、上の子供達に帰国後も英語を忘れないように、米国人の家庭教師に自宅に来てもらっていた。このため、子供達は、中学・高校で英語だけはよくできた。こんなこともあり、私達家族は英語が良く話せるであろうと思われたようだ。

最近あまり駐在時代の話は出ないが、たまに話題に上がることがあると、「もう二〇年も前のことですから」と言うことにしている。

どうかこんな私に、英語やスペイン語

で話しかけないでください。かろうじて  
張り付いている金のメッキが、あなたの  
一言で木枯らしに吹き飛ぶように剥が  
れ落ちてしまいますから。

平成二十二年十二月